

こたごま

第50号 (2023年1月)

発行 九鬼コミュニティセンター

電話 0597-29-2164

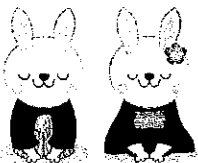
大腸がん検診のお知らせ

〈容器配布日時〉

1月17日(火)

午前9時〜9時30分

旧年中は、コミュニティセンター事業に、多大なご協力・ご参加を賜り厚く御礼申し上げます。
本年もどうぞ宜しくお願い致します。



〈お願い〉

コロナウイルス感染症予防のため、3密(密閉・密集・密接)を避け、手洗いと手指消毒、マスクを着用し、換気に注意してご利用していただきますよう、皆さまのご協力をお願い致します。

年に1回、大腸がん検診を受けましょう!

【料金】300円

(2回目も)

あります)



九鬼の

おもむき

歴史

野口雨情の旅と

九鬼小唄

大漁旗立て波乗り越えて船は港をさして来る

風は東風だよ 大なぶら

サテオシヤシヤノ シヤン

ヤツサオシヤシヤノ シヤン

九鬼の祭りの終盤、賀儀取りの待った!!」の人

気口上の文言句である。

野口雨情作「九鬼小唄」一



野口雨情

昭和十一年(一九三六)六月二十四、五、六日雨情は、三重県下観光地の民謡制作行脚の振出で、九年十二月十九日尾鷲まで開通した汽車に乗ってやってきていた。そして尾鷲小唄に翻は港に、杉檢は山に、紀伊の尾鷲はよいところ』など作った。

昭和十一年(一九三六)七月二日付「新愛知」の記事に「紀北九木浦の新小唄発表」作曲は「東京雨情会」と記されている。最近、同じか?楽譜がみつかった。いつかみんな一緒に歌えたいなあ。

町の人達は、掛軸や色紙にして残している

九木崎、一本松、網干場、奈佐の鼻、頂山・などメモしながら聞いていたであろう。有志の人達の熱情も目にか

この年、昭和十一年は、九木崎敷史上「網最多」の四万六千尾揚げた年だったし、前年十年は史上最多の十六万尾揚げた年だから、村の人達も

野口雨情歌碑馬越峠

